

活動プログラム	No.16 もちつき体験		
期待される効果			
プログラム概要	杵（きね）を使い自分たちでお餅をついて、できたてのお餅を食べてみましょう。お餅の食べ方も、きな粉、とちもち、あんこ入りなどを選ぶことができます。		
対象	どなたでも	人数	2クラス程度
時期	4月から11月下旬	場所	屋根付き広場
金額	体験プログラム料金表参照	大人の人数	15人に1人

準備物	団体ごと	救急セット
	服装 個人装備	水筒、長袖、長ズボン
美方高原で レンタル可能な物		臼、杵、食器、器材一式

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
9:00	屋根付き広場に集合 もちつきの説明 餅つき開始 もちを丸める作業 食べる 片付け	持ち物の確認 手洗いを行う 杵の取り扱いに気を付けること 杵をつく人は近くに人がいないか確認してから行う 手洗いを行う 自分が丸めたものを食べる 持ち帰りはさせない 臼は重いので移動は大人が2人以上で行う（周りに子どもがいないことを確認、近寄らないことを注意喚起してから行う）
11:30	ふりかえり 終了	

補足ポイント

同時に2臼までつくことができます。1臼でおおよそ50人分作ることができます。
とちもちは、栃の木の実を使って作られます。実際に木が生えている姿や、落ちて実を見ることで、山で採れたものを食べていることを実感でき、食育や環境学習につなげることもできます。

活動 プログラム	No.16	もちつき体験
-------------	-------	--------

予期されるリスク	リスクに対する対応
食中毒	手洗いを十分に行う。また使う器材を一度洗い、アルコール消毒してから使用する。食材にしっかりと火を通すように伝える。
アレルギー	アレルギーがある場合は事前に除去する。
杵によるけが	杵は重いので頭より上に振り上げないようにする。
蜂とヘビとの遭遇	遭遇した場合の対応を伝えておく。活動エリア付近の蜂の巣の駆除。

事前点検・準備事項
講師の人とプログラム確認ができているか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は確認できているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確に共有されているか。
施設の準備物は使用可能な状態か。数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行っているか。

活動時のインストラクション（必須事項）
食中毒を防ぐため、手洗いを十分に行うこと
食中毒を防ぐために作ったものはその場で食べ、持ち帰らないこと
杵は重いので頭の上よりあげないこと
杵を持っている人がバランスを崩したときに周りの人ぶつかる場合があるので、後ろや近距離の隣にいないように伝えること